

世代別・職業別タウンミーティング(要約)

テーマ：みんなで支えあおう！地域で元気で！

平成28年9月30日（金曜日）

【市長】 皆さん、こんにちは。まずは松山市版のタウンミーティングについて述べさせていただきます。私が市長に就任させていただいたのが平成22年11月でした。そのときから公約として「タウンミーティングを開催します」と掲げていました。松山市は旧北条市、旧中島町、あわせて41地区に分かれ、その地区ごとに公民館が置かれていますが、その地区ごとにタウンミーティングを開催しています。どっちが楽かという話をすると、市役所で皆さんが来られるのを待っているほうが楽です。でも果たしてそれでいいのでしょうか。やはり実際に現地現場に足を運んで、皆さんの声を聞かせていただくことが大事ではないかと、地区別のタウンミーティングを始めました。聞きっぱなしにしない、やりっぱなしにしないというのが、松山市版タウンミーティングの特徴です。皆さんからご質問などをいただきますと、この場でできる限りお答えをして帰ります。ただ、国と関係する案件、県と関係する案件、財政的によく考えなければいけないものには、いいかげんな返事をして帰るわけにはいきませんので、そういうものはいったん持ち帰らせていただいて1カ月をめぐり、必ず皆さんに返事をするのが松山市版のタウンミーティングの特徴です。市長の任期は1期4年、48カ月ですから、1カ月に1回のペースで41地区を回っていこうと思っていましたが、おかげさまで好評になり、41地区を2年2カ月で回りました。1期目4年の間にもう一巡りしようと、地区別のタウンミーティングを二巡りさせていただきました。2期目に入らせていただいて、この地区別のタウンミーティングは継続しながら、職業別や世代別のタウンミーティングもしていきまして、今回96回目のタウンミーティングになり、来年の2月で100回を数える予定です。大学生世代の方ともタウンミーティングをさせていただき、人生の先輩方とのタウンミーティングもしたいと思い企画しました。今日は、人生の先輩方の声を聞かせていただきたいと思います。タウンミーティングは90分間ですが、肩ひじ張っているとしんどくなりますから、あまり緊張なさらずに、ざっくばらんな意見交換ができればと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。

【司会】 それではテーマについて市長からご説明いたします。

【市長】 世代別タウンミーティングとして、これまで大学生や専門学校

の方々とさせていただき、また、職業別タウンミーティングとして商店街や農業関係の方々ともさせていただきました。ほかにも色んなテーマでしていますけれども、それぞれ参考になるご意見をいただきました。これまでの95回のタウンミーティングの中で高齢者の方に関する要望事項や質問がありましたので、いくつかご紹介します。例えば、桑原公民館では、平成26年に耐震化工事をさせていただき、多目的トイレの設置や入口の段差解消などのバリアフリー化工事を実施し、平成27年2月に完成しました。これは地区別のタウンミーティングをした際に、地域活動の拠点である公民館の耐震化や「もっと便利にしてもらえないか」というご意見をいただいてそれを反映したものです。また、雄郡公民館は3階建てでエレベーターがなく、3階の会議室まで高齢の方が大変そうに階段を上がっている様子を見ましたし、3階の会議室まで階段で上がるのが大変だというご意見をいただきましたので、2年前の平成26年1月に実施した耐震化工事にあわせて、トイレの改修や段差の解消、エレベーター設置などのバリアフリー化を実施しました。そのほか、北条の正岡地区のタウンミーティングでのご意見でしたが、独居高齢者の安否確認のために、地域の民生児童委員さんや我々職員など複数立会いのもとで、やむを得ず窓ガラスを割ったり、鍵を壊す場合には、その際の窓ガラスや鍵の修理は基本的に対象の世帯かご親族もしくは家主さんなどをお願いしていましたが、こうしたことが困難な場合、また結果的に誤った判断などによって修理費用を負担しなければならない場合などは、松山市社会福祉協議会にご協力をいただいて、その費用を松山市社会福祉協議会が負担をすることで地域の見守り活動を支援しています。今日のタウンミーティングは、「みんなで支えあおう！地域で元気で！」をテーマに、市民の皆さんと協働のまちづくりを進めるために、我々行政ができること、しなければならないこと、市民の皆さんでできること、また、皆さんと我々行政が協働してできることを一緒に考えさせていただいて、行政の押しつけではない、市民の皆さんが主役のまちづくりを皆さんと一緒に進めていきたいと思っています。今後、住民の皆さんの多様なニーズにきめ細かく対応していくためには、地域の皆さんの活動をはじめとするボランティア活動や企業の皆さんの社会貢献活動が、これからの地域福祉を支える大きな力になると期待をしています。今日は福祉や生涯学習など、今回のテーマに関係する課長が来ていますので、自己紹介をいたします。

【市民部長】 市民部長の唐崎と申します。このタウンミーティングを所管しています。市民部は、市民に直接関連する部署で、市民課、市民相談課、市民参画まちづくり課、そのほか人権関係の業務を担当しています。

どうぞよろしく願いいたします。

【保健福祉部副部長】 保健福祉部副部長、保健福祉政策課長事務取扱の野本と申します。保健福祉部にある国民健康保険や介護保険、後期高齢者医療、障がい、生活保護、保育、保健所関係などの取りまとめ業務を行っています。本日はどうぞよろしく願いいたします。

【高齢福祉課長】 高齢福祉課長の澤田と申します。高齢福祉ということで、老人ホームなどの施設の整備をしたり、後期高齢者医療制度を担当しています。そのほか見守りなどの対応も私たちの課がしています。どうぞよろしく願いいたします。

【介護保険課長】 介護保険課長の白石と申します。介護保険課では認知症、介護給付、地域包括支援センターや高齢者の方の相談業務などを取り扱っています。本日はどうぞよろしく願いいたします。

【教育委員会事務局次長】 教育委員会事務局次長の家串と申します。学校教育、社会教育を担当していますが、身近なところで申しますと、公民館の関係や地域の活動がなじみ深いと思います。今日はどうぞよろしく願いします。

【市長】 それぞれの専門が来ていますので、遠慮なくご質問いただけたらと思います。専門と違うことがあっても、それを皆さんが気遣うことはありませんし、それぞれ色んな課を経験していますので存じ上げていることもありますし、勉強のため後方に職員が並ばせていただいていますので、皆さんはあまりテーマを気にせずに聞いていただけたらと思います。私も具体的な事例について、しっかりと皆さんの声に耳を傾けたいと思いますので、色んな事例などをお聞かせいただけたらと思います。今日は高齢者を支えあう環境づくりについて皆さんと一緒に考えられたらと思いますので、どうぞよろしく願いします。

【男性】 私は、9月で後期高齢者になります。先ほど市長さんが企業等の社会貢献とおっしゃいました。最近特に大学生で自主的にボランティア活動を行うグループが色んなところに出向いている話もありますが、そのような大学生の社会貢献について、例えば、松山大学、愛媛大学、東雲大学、聖カタリナ大学のカリキュラムか何かの中に地域貢献のようなことを市とタイアップしてできないかと思います。私は古川町に住んでいますが、古川町は、8月1日に東雲短期大学の学生さんとコラボして、古川町に伝わる久兵衛さんの音頭による健康体操をつくり、地域で盛んにやっています。そして古川のPRとして動画投稿サイトYouTubeに投稿して、今、260件ぐらい視聴回数が上がっています。このようにまちの活性化に貢献

しているのではないかと思っているのですが、市として福祉の分野で学生を活用したいとか、お考えをお聞かせ願えたらと思います。

【高齢福祉課長】 社会福祉協議会の中にボランティアセンターがあります。各大学にもボランティアのクラブがあり、実際に福祉のボランティアやいろいろなボランティアをするクラブが4つの大学にあります。ボランティアをしてもらいたいところと実際にボランティア活動をしているサークルとをボランティアセンターを介してつなぐことができれば、ご希望に沿える部分もあると思います。

【市長】 カリキュラムや授業となると各大学さんの判断になってきますが、松山市は各大学と協定を結んでいますので、促すことはできると思います。私はできるだけ大学生や専門学校生に力を貸してほしいと思っています。もちろん高齢の方の力も貸してほしいです。事例を紹介すると、大学生に防災で力を貸してほしいので、愛媛大学の防災情報研究センターさんに、大学の授業で防災士の資格が取れるようにカリキュラムを組んでいただきました。そのような社会貢献活動をやってもらえる授業をして、単位として認めてもらえることができれば本当にいい事例だと思います。実は高齢の方にも力を貸してもらいたいということで、還暦集会という事業を松山市が3、4年前から始めました。今、60才で退職してもお元気ですし、家に引きこもってしまうのはあまりにもったいないので、還暦を迎える方々に集まってもらって、会場にブースを設けて、どんな社会貢献活動があるのか知ってもらうことをしています。今は名前を還暦集会から生涯現役交流集会に変更し、地域活動やボランティア活動への参加を案内するブースや市民活動に関するセミナーなども開催して、退職後も生涯現役を目指した生活を応援するさまざまなご提案をしています。企業さんも力を貸してくれていて、石井地区では、石井地区まちづくり協議会と天山のセブンイレブンを展開するアトムグループさんの系列会社が大規模災害時における三者協定を締結して、生活物資の提供と情報共有できる体制づくりを行いました。このように企業さんも力を貸してくださっています。ですから行政だけでやってしまうのではなく、若い人の力も借りたい、高齢の方の力も借りたい、企業さんの力も借りたいということで、思いは一緒だと思います。

【男性】 市長さんのお考えを言っておきますと、我々も別のチャンネルを使って、切り口になる可能性もあります。特に学生にこだわるのは、色んなサロンなどをするとき若い人が来るとみんな喜びます。我々おじさんが何かするよりは絶対喜ばれます。その力を活用したいというのが主旨です。

【市長】 ボランティアセンターは、社会福祉協議会が頑張って運営してくださっていますので、そこでいろいろな情報をお伝えすることができるかもしれませんので、のぞいていただけたらと思います。

【女性】 「認知症の人と家族の会」の活動に参加している者です。私も来年に後期高齢者になるので、シルバーのことについてはとても興味がありますし、今後どういうふうに過ごしたらいいかなと考えています。「認知症の人と家族の会」で電話相談を受けたり、関連の施設でボランティアをさせていただいたりしていますが、家族や地域の人々の認知症に対する理解があまり十分ではないと考えています。認知症の人は物わかりが悪いので、ついつい大きな声で怒鳴ったり、もしくは大きな音がすると、ご近所の人々が虐待をしているのではないかと勝手に通報して、後が困ったということもあります。それから施設に入居されている人は買い物に連れて行ってあげないといけないんですが、連れて行くと、認知症の病気の中には人のものと自分のものの区別がつかない認知症があって、万引きという形になり、おまわりさんが来て、こういう人を買い物に連れ出したらいけないじゃないかと施設の職員が叱られ、こういう場合はどうしたらいいか、という電話相談も受けたことがあります。皆さんに認知症について理解していただくために、サポーター養成とか、国が作成している新オレンジプランを松山市は今後どういうふうに啓発して、理解者を増やしていただけるのか質問です。

【介護保険課長】 松山市では、認知症を正しく理解していただくことがとても大事だと考えています。現在、認知症サポーター養成講座を開催していますが、これは地域や小学校、中学校に認知症サポーター養成講座を開催してもらうように周知をさせていただいています。去年は、小学校で10回、1,056人の方に受けていただき、中学校で4回、188人の方に受けていただきました。地域での講座は、町内会や職場、学校など10人以上のグループで市役所に申し込みいただければ、私どもから講師を派遣して、認知症の勉強をしていただいて、認知症サポーターということでオレンジリングを皆さんにお渡しさせていただいています。個人的に申し込みをされたい方については、12月20日に講座を開催する予定ですので、11月の広報紙をご覧くださいと思います。

【市長】 できるだけ正しい理解の方を増やしていきたいという思いです。松山市のサポーター数は、平成28年3月末時点で約2万3千人です。エピソードも交えてお話をします。私は、ちょうど9月から11月の土日祝日が非常に忙しいシーズンになります。敬老会や地区の体育祭、そのあと

に地区の文化祭があって、敬老会は松山市では大体300カ所ほど公民館分館で開催されます。そこに行ったときにお話したのは、今の松山、今の愛媛、今の日本を築いてくれているのは人生の先輩方のおかげだということです。我々世代は、お米を炊くのも簡単ですが、昔は火をおこすことからやりました。洗濯も乾燥までしてくれる時代ですが、昔は洗濯板でしたよね。やっぱり人生の先輩方が絶対苦勞されています。国自体が1,000兆円の借金を抱えている中で、国から地方自治体への仕送りがこれから増えるとはとても考えにくいです。そして、少子高齢化で、私もいずれそうになりますが、お世話になる人は増えて、働いて税金を納めてくれる人は少なくなっていくと思います。どこの地方自治体も限られた予算の中でやりくりしていかないとはいけませんが、できるだけ人生の先輩方には親切にして、その声に寄り添っていきたいです。これまで苦勞してきた方が粗末にされるような社会は何か間違っているのだと思います。ですので、できる限り皆さんの声に寄り添っていきたいというのが我々の思いです。

【女性】 脳活性化サポート会社の者です。介護施設や病院関係のスタッフさんを対象に研修や人材育成等をさせていただいています。その中で、市長が先ほどおっしゃられたように、人生の先輩が今の日本をつくってきていることに私も注力していて、人生最後に疎まれながら認知症によって亡くられるのは絶対なしだと思い、高齢者の方が住み慣れた地域で安心できる環境づくりをしています。そこで、私がしているような取り組みの必要性や支援・啓発等についてどのようなお考えなのかお伺いできたらと思います。

【介護保険課長】 福祉施設や病院等の職員の人材育成ということでしたが、私からは介護サービス従事者の確保や資質の向上についてお話をさせていただきます。まず介護サービス従事者の確保や資質の向上については都道府県がその役割を果たすというルールになっていて、愛媛県では介護職員技術向上講習会や新任職員研修会を実施し、松山市はまずはこれを皆さんに周知をさせていただいています。これとは別に、松山市でも年に6回ほど外部講師を招いて、昨年であればコミュニケーション能力の向上や笑顔の口腔ケアなどの内容で研修を行っています。松山市では今後も高齢者を支える側の人材育成が重要だと考えていますので、引き続きそのような事業に取り組んでいきたいと考えています。

【市長】 脳トレは石井地区の動きがあると思いますが、市民部から事例を紹介していただけますか。

【市民部長】 石井地区では、石井地区まちづくり協議会と社会福祉協議

会が協働して脳トレに取り組まれています。その費用はまちづくり協議会と社会福祉協議会が負担していますが、まちづくり協議会には市から交付金を支給しています。この交付金は、地区の中でどう使うかは皆さんで考えて、自己決定、自己責任のもとに使用してくださいというもので、石井地区のまちづくり協議会は、交付金の中から積極的に脳トレに費用を振り分けて取り組んでいます。

【市長】 石井地区での取り組みは、継続的に読み・書き・計算の反復学習をすることが脳の活性化につながるということを知ったことがあります。石井地区で受けられている方の反応はどうか。

【男性】 古川と石井の2カ所の脳トレ教室をお世話させていただいています。全般的に言えば、計算もおもしろいしですし、頭が活性化します。読むほうは、教材が昔の教本のため、国語は改善を要するところがあります。最近、指体操や筋トレのメニューを付け加えました。筋トレといっても、腰から下の太腿の裏表やふくらはぎを座ったままで足を上げたりするトレーニングで、これをやると喜ばれました。

【市長】 ありがとうございます。市としては健康寿命を長くしたいです。今、一説には、実際の寿命と健康寿命との間に10才くらいの幅があるといわれていますが、この差をできるだけなくしていきたいと思っています。行政としても、この夏に堀之内にラジオ体操の全国大会を誘致しました。皆さんに健康になっていただくための1つの方法としてラジオ体操を誘致しましたが、とにかく市としても皆さんに健康になっていただきたい思いは一緒だと思っておりますのでよろしくお願いします。

【男性】 私は、久米地区で孤食対策事業として、「ふれあい食堂」を毎週木曜日に今年7月から始めています。独居高齢者の方の引きこもりの予防、介護予防、健康づくり、安否確認、生きがいつくり、そのほか、子どもたちの孤食による栄養バランスへの対応などを目的として行っています。現在、久米公民館の2階で行っていますが、高齢者の方が2階まで上がって来られず、参加したいけれど参加できない状況が多数発生しています。できれば、企業として、地域福祉の推進に協力していきたいので、こういう場所が使えるという情報の提供をいただけたらと思います。

【教育委員会事務局次長】 公民館で、ぜひ地域のそういった活動を支援させていただきたいと思っていますし、積極的に活用いただけたらと思います。久米公民館では、地域の活動を積極的にされていて、生徒の宿泊をしながら登校する事業や今おっしゃられた「ふれあい食堂」の事業を積極的に展開されていて、我々もぜひそういった場を大いに活用させていただきた

いと思っています。

【市長】 2階まで上がりにくいですか。

【男性】 そうですね。螺旋の階段になっていて、ほかよりちょっと長いので、上がりづらいという方がいます。94才の方も最初は来られていましたが、1回のみで2回目からは来られなくなりました。

【市長】 鷹子の老人福祉センターは確かエレベーターがあったと思いますし、広いです。利用目的などいろいろあって、うまくマッチングできないかもしれませんが、老人福祉センターは候補になるかもしれませんが、確認してみます。久米公民館での「ふれあい食堂」のことは、私もテレビで拝見させていただきましたが、地元の方々が食材を持って来られたり、企業さんも加わったり、高齢の方だけではなく、子どもも参加しているのが上手にされていると思います。私も95才になる祖母がいますが、祖母から色々なことを教えてもらいました。おじいちゃんおばあちゃんから孫世代の小学生たちに教えてもらうことも貴重だと思います。そのような場にもなりますし、栄養の偏りが心配される面でもつながるといいことがいっぱいあります。つながると防犯面でも助かります。若いご夫婦が抱えるようにして子育てするとしんどいですが、人生の先輩方にちょっと声を掛けていただくと気分転換にもなるし救われる部分もあり、つながると子育ても助かります。近所づきあいがあれば、大きい災害が起こって避難しても、姿が見えないことにも気づけます。やはりこうやってつながりをつくっていきたいです。行政も頑張りますけれども、行政だけではなかなか難しいところがあります。今、マンションが松山市内に増えています。それは、松山市中心部は、大きい病院があり路面電車で移動できて便利だということで、若いときは郊外に住んでいたが、中心部のマンションに住む方が結構増えています。そこで、町内会への参加がちょっと難しくなってきましたが、できるだけ町内会にも入っていただくほうが、地域ともつながっていくので、我々もそれを促す活動もしています。本当に久米はいい活動をしていただいている、本当にありがたいなと思います。市役所に言っていたら、場所などの情報提供もできますので、何なりと言っていたらと思います。

【市民部長】 「ふれあい食堂」の情報発信の件ですが、松山市としても、各企業が地域に入っているいろいろと取り組みをしていただくのは、本当にありがたく思っています。久米の「ふれあい食堂」のことは、まちづくり協議会通信で情報提供させていただいていますが、これは、他の地区のまちづくり協議会にも配らせていただいていますし、ホームページにも掲載させていただいていますので、こういった形でも支援をさせていただきたい

と思います。

【女性】 私は、伊台で地域交流サロン「伊台の実家」を開いています。かなりの高齢者ではなくて、50代、60代の人たちが健康寿命を延ばすために、どのようなことをしたらいいかを相談して、みんなで集まって、今日は誰ともしゃべらなかつたということをもしくはなくしたいということで始まりました。最初立ち上げるときに、どうやって立ち上げてよいかかわからず、色んなところに聞きに行つて、地域交流サロンのことを知り、現在活動しています。平成23年5月から始めて5年目になりますが、最初は年間15回から始まって、今は年間24回開いています。その拠点として、立地条件がよく集まりやすい伊台公民館さんにご協力いただいています。会費として1回100円をみんなからいただいています。100円では回数を増やしていきたいと思うとなかなか厳しいところがありますので、そのあたりのご協力をいただけたらと思うのと、やはり公民館をずっと使えるという安心感があるとうれしいです。

【高齢福祉課長】 色んな交流サロンをしていただき、ありがとうございます。地域交流サロンは、共同募金の分配金を活用していて、1回あたり3千円で15回を限度にお金を社会福祉協議会から出させていただいて、援助をさせていただいている状況です。地域の障がい者の方や子育て中の親御さんなどが気軽に集まって、ふれあいを通じて仲間づくりの輪を広げる地域の情報交換や地域学習の場になっているのはおっしゃられたとおりだと思っています。現在公民館を利用されているということですが、地域交流サロンは使用料の減免が利用できると思いますので、引き続き公民館でのご利用をお願いしたいと思っています。

【市長】 遠慮なく何でも聞いてもらったらと思います。地区別のタウンミーティングでは、よく道路の話が出ます。皆さん、国道11号とか33号、56号はおわかりになりますけれども、どこが国道で、どこが県道で、どこが市道で、私道もあって、どこが農道かわからないですよ。市と県と国があつたら、皆さんは国の役所に行くことはあまりないと思います。やはり市役所が一番多いと思います。道路のことで例えて言いましたが、国道だったら我々から国に言いますし、県のことだったら我々から県に言いますので、遠慮なく市に相談いただいたらと思います。我々からも言いますし、生の声として皆さんからも伝えていただくのが一番わかりやすいと、これまで5年半させていただいて感じているところですけれども、遠慮なく言っていただいたらと思います。

【男性】 私は、建設業専門会社からまいりました。防災については、南海沖トラフ大地震がささやかれ、今至るところで大きな地震が発生しています。地震が起きれば、当然倒壊などいろいろと災害が起きますが、その中でも、特に大きな災害として、ブロック塀の倒壊、また家の中では家具の倒壊、屋根瓦等の落下などが考えられます。建設業の専門工事に携わっている職員は、色んな職種の方がいて、シルバー世代に入って現役を引退された方でも、まだまだお元気な方が非常に多くいらっしゃいます。例えば、独居老人世帯や高齢者世帯の家具の倒壊防止対策として、家具を倒れないような留め金をつけていくとか、ブロック塀や屋根瓦のチェックをしていくようなシステムづくりができないかなと思っています。シルバー人材センターでは、いきいき仕事センターという非常にすばらしい取り組みをされていますけれども、こういう技術部門の内容が少ないような気がしています。これを立ち上げるためには、色んな問題があります。例えば、倒壊防止対策をしたあとに震災が起こって、倒れた責任はどこにあるのかなど、色んな問題があります。そういった点を踏まえて、行政と社会福祉協議会さん、また我々技能士とのマッチングができないものかと思っています。

【市長】 たしかに、例えば60才で退職されて、そういう技術を持った方々を生かすところがあったら、助かる方がいると思います。うまくマッチングできると、いいことができそうな感じがします。いったん持ち帰らせていただこうと思います。今日は、危機管理課は来ていないですが、松山市は、もともと消防局で防災を担当していましたが、防災面を強めようということで、危機管理担当部をつくりました。この件は、持ち帰らせていただいて、よく検討させていただいて1カ月をめぐりに返事をさせていただいたらと思います。ご協力いただくようなことがあるかもしれませんが、またよろしくお願いします。平成23年の3月11日の東日本大震災の際、私が市長に就任してちょうど4カ月でしたが、東京にごあいさつに行っていて、震度5強の揺れを感じて、結局帰宅難民になりました。羽田空港3階のおみやげもの売り場の床に段ボールを敷いて寝ましたが、そのときから防災士の資格に興味が出て、防災士の資格を取りました。ぜひとも皆さん、高齢の方と関わることがあると思いますので、できるだけ家具固定をしていただいたらと思います。家具固定をしていないと、震度7ぐらいの大きな揺れになると、飛ぶような勢いでタンスが飛んできます。当たり所が悪ければ、命を失うようなけがをしますし、手足に当たって骨折すると避難しづらくなります。体に当たらなかったとしても、タンスが倒れると逃げ道を失ってしまいます。あれだけ重いタンスが家具固定されていない

ことは恐ろしいことですので、できるだけ皆さん家具固定してくださいと申し上げています。そして、7日分の備蓄をそれぞれでお願いしますと、国のほうでも言っています。もちろん松山市としても、坊っちゃんスタジアムの下など公的備蓄はしています。また熊本地震の際に職員を派遣した経験から、分散備蓄を始めています。集中備蓄も大事だけれども、分散備蓄も大事ということでやり始めていますが、面倒かもしれませぬけれども、各自で1週間分の備蓄をしていただいたら、並ばなくても好みのものが手に入りますので、この備蓄と家具固定をよろしくお願いします。

【男性】 私は、JAえひめ中央農協に勤めています。農協は地域に根差した組織ですが、今まで私たちは、色んな事業を通じて相談会などに行ってきました。最近、松山市の社会福祉協議会さんと一緒になって、異業種の方々との相談会を行う機会を設けています。先日も、こちらの総合福祉センターさんで、サポートフェスタ等を一緒にさせていただきました。地域に根差した社会貢献活動を行っていきたいと思っていますが、こういった活動には地域や公民館の方々の協力も必要だと思いますし、そういった具体的な活動の情報提供や広報等の支援をいただきたいです。お互い情報を、こちらも発信したいですし、松山市さんからも情報提供いただきたいと思しますので、ぜひともそういった支援をご検討いただけたらと思います。

【教育委員会事務局次長】 公民館の活動として、松山市公民館連絡協議会のホームページ、また公民館だよりなどを通じていろいろな取り組みを紹介しています。

【市民部長】 先ほども少し触れましたけれども、最近地域のまちづくりに参画していただいている企業の方々が増えていて、松山市としても大変ありがたいと思っています。各地域でどのようなことをしているかという情報は、市民参画まちづくり課で十分把握していますので、地区を指定いただければ情報提供させていただきますので、お気軽に市民参画まちづくり課にご連絡いただけたらと思います。

【市長】 遠慮なく聞いてください。

【男性】 私は地域包括支援センター北条に勤務していて、日ごろは介護保険課と連携を密にし、支援センターの業務を行っています。私は、現在の北条地区の状況を知っていただきたいと思ひまして、お話をさせていただきます。北条地区は、中島に次ぐ高齢化率が非常に高い地域で、市内中心部と比べるとマンションも少なく比較的一戸建てが多いので地域の関

係性が濃い地域であると思います。日々の相談の内容としては、食事、移動手段、集いの場、独居高齢者の生活についての4点の課題がよく挙げられます。実際に介護保険制度のサービスでは支えきれない部分が多く、なかなか解決に至らないケースも出てきている状況で、これからの高齢者支援のためには自助、共助、公助を踏まえた支えあいの地域づくりが必要であると改めて思っています。今後も継続して、地域の皆さんの声を聴いて支援の充実をしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

【市長】 北条も7地区に分かれていますけどのあたりですか。

【男性】 北条全体です。

【市長】 北条エリア、旧北条市ですね。松山市と旧北条市と旧中島町は平成17年1月1日に合併しましたが、私も旧北条市に実家がある人間です。北条は松山市と比べると財政的に厳しかったところもあるので、今の松山市全体で見ると、できていなかったことが旧北条、旧中島にはありました。旧北条、旧中島と比べると松山は財政的にはよかったので、今だいぶ旧北条や旧中島でできていなかったハードができてきているところです。北条にはこの間、児童センターができました。堀江のタウンミーティングのときに、児童館が近くにないと小学生の女の子から言われました。堀江の子は久枝まで行かないといけなかったのですが、このたび、北条の文化の森の保健センターを改修して、保健センターと児童センターの複合施設としてオープンしました。子どもと一緒に皆さんも便利にということで、音楽室をつくりました。今、家が接近していますから、家でピアノを練習したり、楽器を演奏しようと思っても隣近所にご迷惑になるので、なかなか家では練習ができないというので、この北条の児童センターには音楽室を設けて、無料で使えるようにしています。はなみずき通りにある南部児童センターも音楽室を設けていて、利用者数が全国の児童館の中でも10本の指に入るぐらいの利用者数です。また、高齢者の方も大事ですけれども、松山市北部にはさまざまな世代の福祉関係者の交流施設が少なく、タウンミーティングでもご意見をいただきまして、旧北条市の安岡に北部交流拠点整備事業ということで、今建設をしているところです。今年度末には地域福祉活動の拠点施設として、利用を開始する予定ですので、そちらも利用していただけたらと思います。

【男性】 私は銀行を退職して、現在松山市社会福祉協議会で高齢者等に対する金銭管理支援業務に携わっていますが、高齢者の支援をするに当たって、支援の考え方や倫理基準を統一しておくことが大切だと思っています。例えば、自己決定の倫理基準がありますが、文書で読んでもなかなか

身に付かないと思います。ビデオ等で目に訴えて繰り返し見て覚えてもらうことが大切だと思います。今、定年を迎えてボランティアをする人は多いと思います。自分の経験からもそれらの人の倫理基準がひょっとしたら間違っていることもあるのではないかと思います。やさしさや思いやりがあるだけでは、片付けられないこともあって、職員だけでなくボランティアを受け入れる場合は倫理教育にも力を入れていただけたらと思います。高齢者の業務や活動において、視聴覚ビデオなどで倫理基準や価値基準を徹底して学んでもらうことを提案したいと思います。

【市長】 確かに倫理基準って大事ですね。

【高齢福祉課長】 松山市ボランティアセンターでは、傾聴ボランティア養成講座や災害ボランティア養成講座、おもてなしボランティア講座などを行っていますが、その中で、高齢者の方や障がい者の方に配慮すべきことを研修内容に組み込んでいます。今後も、高齢者の方や障がい者の方にもわかりやすい研修内容に努めていきたいと思っていますし、この研修は、ボランティアセンターに登録していなくても、市民の方は参加できますので、ご利用いただければと思います。

【市長】 今のような現場の声を寄せていただいて、改善を続けていただくことが大事だと思います。今、市役所の中でも、去年と同じように漫然とするのではなく、例えばイベント後は必ずイベント報告書を出さないといけなくなっています。私のところにイベント報告書があがってきますが、改善点が少ないと私は怒るんです。改善点が見つかってこそ、イベント報告書の意味があるので、必ず改善することを重視していますし、今のような現場の声を教えていただくのが大事ですので、これからも言っていただきたらと思います。

【女性】 私は、現在シルバー人材センターに加入していて、松山市社会福祉協議会さんと行政側と連携して、道後温泉の浴衣を利用したクッション、トートバッグ、名刺入れ、ブックカバー、コースターなどをつくっています。それを高齢者で行っていますが、指先を使って色んなことをすると認知症も少なくなると思います。おうちにずっといるのではなく、出て来てもらってみんなで指先を使えば、認知症予防になり、健康寿命が延びると思います。その作品づくりに私どもは生きがいを感じていますので、商品をもっとつくれるように市で支援をお願いしたいです。

【市長】 皆さんにも知っていただきたいのでご説明します。道後温泉の大広間を想像いただきたらと思いますが、浴衣をお貸ししていて、長期間使っているとほつれてきたりします。そういう浴衣は以前は処分していま

したが、皆さん方に浴衣の色を染めていただき、バッグやクッションをつくっていただいています。道後温泉の浴衣は湯玉のマークがついていますから、温泉らしい松山らしいもので、それを障がいのある方も一緒にお仕事をしていただいています。そういう新たな製品ができていることを皆さんにも知っていただきたいのでご紹介させていただきました。

【市民部長】 ご協力ありがとうございます。松山市としても、引き続き、浴衣の提供や積極的な商品のPR、そのほかお客様に手に取っていただけるよう陳列に工夫するなど多くの高齢者の方々、障がい者の方々が引き続き商品の作成に取り組んでいただける努力をしていきたいと考えていますので、引き続きどうぞよろしくお願い致します。

【女性】 私は味生地区でいきいきサロンの代表者をしています。私どものサロンでは昨年から近くの保育園さんからのお申し出で、絵本の読み聞かせを行っています。この読み聞かせは、高齢者の認知症予防や生きがいづくりの点で効果があり、また子どもたちの心を育て、本に馴染んでもらうという点でもいい試みじゃないかと思っています。また、お互いのコミュニケーションがとれて、子どもさんもとて楽しくサロンに出かけて来てくれています。これをほかのサロンや地区の社協さんにも広めてはどうかと思い、広めるに当たっての課題といたしますか、私たちがちょっと困っていることを申し上げたいと思います。まず、絵本ですが、昨年度までは業者さんに持って来ていただいていたのですが、今年度から市社協やボランティアセンターが持っている絵本をお借りして、市の社協さんをお願いして持って来ていただいています。本来なら私どもが取りに行かないといけないんですが、サロンの活動援助員さんなど高齢化しまして、運転する方も少ないので、市の社協さんをお願いしています。それと経費ですが、今はサロンの運営費から出しています。年に4回、3カ月に1回の割合で近くの保育園さんと子どもさんたちを対象にした読み聞かせをしています。経費や絵本の運搬方法を市でも検討していただけたらと思います。

【高齢福祉課長】 絵本の運搬については、社会福祉協議会にある約500冊の中から、そちらにお持ちしている状況ですので、今の形を継続して社会福祉協議会をお願いして持ってきてもらうようにできればと思っています。それ以外に、拡大のことについても社会福祉協議会にお話をいただければ協力いただけるものと思いますので、よろしくお願い致します。

【市長】 読み聞かせは、本当にいいと思います。今、社会を騒がせる殺伐とした事件がありますけれども、よくイマジネーションができない時代だといわれます。例えば、本を読むとこれからどうなるんだろうとか、そ

の様子を思い浮かべますよね。そのような作業がものすごく大事なんだそう
うで、そのような観点からも読み聞かせは大事な事業だと思いますので、
引き続きよろしくをお願いします。

【男性】 味生地区で民生委員をしています。最近よく聞く地域包括ケア
のことを考えながら、日々活動をしています。足元の問題として、民生
委員になる方が非常に少ない実態について、対策などをお願いしたいと思
います。ご承知のとおり、一斉改選ということで、3年目ごとの節目にあ
たりますが、結果として、各町内会長さんのみならず、非常に多くの方に
民生委員を選ぶことに対して多大なご迷惑をおかけしています。一方で、
高齢者の日常的な困りごとに対応する地域福祉サービス事業は、需要と供
給のバランスがうまくいっていないので、協力会員の人数をもっと増やし
て、高齢者の要望に応えられる制度に整備をしていく必要があると思いま
す。我々も協力会員の方と一緒にサービス事業をする中で、信頼関係を構
築していき、こういう人材であれば将来民生委員になってほしいというよ
うな、いわゆる民生委員の育成の場としてこの制度を利用していきたいと
考えています。市でも、この民生委員の確保に向けた支援策、あるいは地
域福祉サービス事業の充実強化に向けた取り組みなり、支援をお願いでき
たらと思います。

【保健福祉部副部長】 言われたように何年も前から各地域の皆さんから
民生委員の後継者がなかなか見つからないんだというお話は聞いていま
す。これは行政がこうしたらいいですという答えを持ち合わせていません
ので、先ほど、ご提案されたように普段の地域の福祉活動の中で後継者
を探していただく地道な活動が大切ではないかと思っています。地域福祉サ
ービス事業は、サービスを提供する側と利用する側が、当初思っていたほ
どに伸びていないのも確かに事実だと思います。そういった中で制度の周
知やボランティアに参加していただける方を広く呼びかけて後継者づく
りの一助になるように取り組んでいきたいと考えていますので、よろしく
お願いします。

【市長】 全国、どこの地方自治体もなかなか特効薬がないという現状で
す。私ごとになりますが、私の義理の父も民生児童委員を20年近くさせ
ていただきましたが、民生児童委員さんは地域のお世話役で、本当に頭が
下がるなと思います。市役所の中でも、民生児童委員さんのなり手のこ
とは以前から言われていますので、民生児童委員さんのその前の世代を育
成することを庁内で検討したことがあります。これも引き続きまたやっ
ていこうと思います。冒頭の話にもなりますが、行政だけではなかなかでき

ることには限りがあるので、皆さん方と話しながら工夫をしながらやっていきたいと思っています。

【女性】 私は松山市の大街道のてくるんで、まちなかサロンの活動支援員として高齢者に健康体操などを教えています。皆さん元気でいきいきとされていて、高齢者が元気でいきいきと長生きするためには、ふれあいきいきサロンのように高齢者が気軽に集まって介護予防などをする場所が必要だと思えます。サロンを含めて松山市で気軽に健康体操ができる場所づくりなど支援をお願いしたいです。

【介護保険課長】 てくるんでいきいきサロンをしていただきありがとうございます。ふれあいきいきサロンは、住民の方の通いの場として、気軽に集まれる場として事業を運営いただいています。皆さんが集まりやすい立地条件のいい地域の公民館や集会所は市内に約400カ所あります。それぞれ地域の中でルールが決められていたり、事業が混み合っているときなどはバッティングすることもあると思いますが、まずは各地域の公民館や集会所をご利用いただければと思います。もし、サロンの活動として会場費が必要な場合は、サロンの運営費の中で、会場費についても見させていただいていますので、ぜひご利用いただければと思います。

【女性】 私は社会福祉協議会の権利擁護センターで生活支援員のお仕事をさせてもらっている中で感じたことをお伝えしたいと思っています。障がい者の方が高齢者になったときに、一般の高齢者の方に比べて、人との交流の機会が少ないような気がします。日常は施設の方や施設利用者の方との会話が主で、私たちが訪問するとすごく嬉しそうにお話をしてくれます。ですので、もっと子どもたちや地域の方と交流する場所があったらいいなと思っています。

【市民部長】 市内41地区のうち20地区でまちづくり協議会が設立されていますが、まちづくり協議会の中には、若干名称は違いますが、どの協議会にも福祉部があって、その中には地区の社会福祉協議会の方や民生委員の方なども参画されていますほか、福祉関係の企業や病院などが構成団体になっているところもあります。福祉部の活動は、地域福祉の課題について話し合うことのほか、日ごろから各種の地域の団体と連携をとりながら、地域との交流を図っている地区もありますので、そういったまちづくり協議会の構成団体となつて交流をするのも、ひとつの方法ですし、また構成団体にならなくても協議会と連携する機会をつくっていくこともよいと思います。これも市民参画まちづくり課が窓口になりますので、お

気軽にご相談いただきましたら、その地域との仲介もさせていただきますので、よろしく申し上げます。

【市長】 遠慮なくこちらも言っていただいたらと思います。

【女性】 松山市ボランティア連絡協議会の副会長と事務局長をしています。地域では石井ボランティアといい、昭和57年からボランティア活動をしています。石井は人口5万9千人で、私もまちづくり協議会や公民館の運営審議会などに入って、地域で公民館を利用して体操指導もしています。うちの会員さんも長い間ボランティア活動をしていて、65才を過ぎて80才近くの会員さんが多くなっています。その人たちは市長さんが言われますように人生の先輩で、皆さん何か1つは特技があります。この会員になっていただくような人や松山市のボランティア団体に来てくださるような人はいいですが、5万9千の人口の中で、出てくる人は限られています。家にいたら認知症になるとか、脳トレをしないとイケないという前に、自分の持っている人より優れたものを見出して、若い人にでも教えていくと元気が出ます。うちの会員さんでも「あなた針仕事が上手ですね。施設に行って雑巾を縫ってくれますか。」と言うと、喜んでしてくれます。人数が石井地区は多すぎて、そういう人を見つけるのに行政の方のお手伝いがあったらと思います。それから、南部児童センターで食事の提供もさせていただきますが、あそこには全然水を使うところがないです。お祭りをした際もいつも言いますが、それは上まで届いていないのかもしれない。それと、もう一つは、空港から坊っちゃん列車が走ることに 대해서는できると思いますが、砥部の動物園まで線路が引けたら石井はいいなと思います。

【市長】 児童センターに調理室がないのは、理由があるのだと思います。

【保健福祉部副部長】 児童センターの建物は、児童センターと保健センターが併設された施設になっています。そこで「はなみずきセンターまつり」などをされているのは承知しています。今、言われたように調理する場所がない状況を一度確認させていただいて、何か衛生上の問題がないかどうかを含めて、一度現状を確認させてください。

【市長】 空港への坊っちゃん列車、とべ動物園への移動ですが、私からお答えします。今、空港に坊っちゃん列車が行くかどうかは検討しているところで、確か3ルートぐらい想定されるルートがあるかと思いますが、考えないといけないのは、どれだけお金がかかるかということです。おそらく民間だけではなかなか難しい話になると思います。そうすると税金を投入しないといけなくなります。税金を投入してどれぐらいの利用者で、

どれぐらい時間が短縮できるかということも、今、検討しています。実際に空港まで坊っちゃん列車が行くことになれば、観光面ではとても魅力がありますが、今はルートを選定しながら、どういう課題があるかを検証しているところです。できたらとても夢のある話だと思います。とべ動物園への列車は、伊予鉄道さんの事業になります。森松線が昔はありましたが廃線になっていきますので、伊予鉄道さんが収支を見ながら廃線にされたのだと思います。今はバスがありますけれども、松山市営だと話がまた違いますが、なかなかその辺がシビアなところかなと思っています。

【市民部長】 ボランティア活動の人材発掘に関してですが、最初に触れました現役交流集會を松山市では開催しています。今年度も2月に開催する予定ですが、この現役交流集會の目的の一つが人材発掘です。リタイアした方をいかに活用するかということで、色んな紹介をするようにしています。まったく思いのない人を駆り出すまでの力はないかもしれませんが、何かやりたいと思っている方のきっかけには十分なと思いますので、この集會をうまく活用しながら進めたいと思っています。

【市長】 最後に私から述べさせていただいて、終わりにしたいと思います。見守りネットワークの話を最後にさせていただいて、閉めさせていただいたらと思います。松山市見守りネットワークを4年前につくりました。これは平成24年の春だったと思いますが、他県で高齢の姉妹の方がお亡くなりになって、孤独死で発見された例があったと記憶しています。松山市では、そういう不幸な例がないようにと、行政だけではなく民間の事業者さんにもご協力をいただいて、今、金融機関さんや電気会社、ガス会社の方など24業者の方でつくっています。事例としては、2～3日連絡がとれないので、民生児童委員さんに自宅へ行っていただいて、現場で情報収集したところ在宅の可能性が高いため、鍵を開けて入るとベッドで横たわって衰弱をしていました。2～3日連絡がとれなかったですが、緊急搬送をすることができました。また、80才の女性の方ですが、ヘルパーさんが訪問した際に玄関の鍵と窓が閉まっていた。新聞が4日分たまっていて、市に通報して現場などで情報収集したところ、在宅の可能性が高いため鍵を開けて入ると、転倒して居間に横たわっていました。その方を緊急搬送することができました。これは行政だけではできなかったことではないかなと思います。24事業者さんで見守りネットワークをつくることによって、命が失われそうなところを助けることができた代表的な例だと思います。何度も繰り返しますけれども、行政だけではやることに限りがありますので、皆さんと意見交換をしながら、知恵を絞りながら、また汗を流しながら高齢者を支えあっている、人生の先輩方が大切にさ

れる世の中を、しっかりと一緒につくっていきたいと思いますので、どうぞよろしくをお願いします。今日、本当は発言したかったが、なかなか言えなかった方は、市長への直接のメール制度が市役所ホームページにありますので、遠慮なくこれからも言っていただけたらと思います。どうぞよろしくをお願いします。

— 了 —